

笑顔あふれる！
いちご狩りにようこそ

みんなでつくる「思い出の時間」
みんなでつくる「いちご狩り」





海の向こうにみずほPayPayドーム福岡や福岡タワーを望む、能古島の特別養護老人ホーム「能古清和園」(西区能古)。ここでは職員一丸となって、ご利用者の方の“したい”を叶えるイベントが実施されています。その内容とは…。※以下敬称略

——「食」をテーマにさまざまなイベントを実施しているそうですね。2月に施設内で開催された「いちご狩り」はどんなイベントだったのでしょうか。

蔵田 なかなか外出できないご利用者の方が、施設にしながら春の味覚や行事を楽しめるように、職員が企画しました。どなたでも「いちご」をもち取れるように、飾り付けには高さや幅を変えられるラックを用いるなど工夫しました。

本嶋 イベントの飾りやいちごを入れるカゴを、ご利用者の方につくっていただいたんです。また、いちごのパフェも用意して、春の味覚を味わっていただきました。参加された方から「このようなイベントになって感動した」と言われ、私たちも感激しました。

山川 職員は仮装したのですが、これは施設長のアイデアです(笑)。おかげで、皆さんに「可愛い」と喜んでいただきました。

——ご利用者の方やご家族、島民など100人以上が訪れる「秋祭り」も企画・実施しているそうですね。こういったイベントを開催する目的とは？

山川 一番は楽しんでいただくことです。私たちには「ご利用者の方の笑顔のために」という理念があり、日ごろから皆様に

「したいこと」を聞いて企画しています。特に普段の食事にはないメニューのイベントは喜ばれます。

本嶋 焼き芋やケーキバイキングなど、いつもは出せない食イベントで非日常感を感じていただき、「楽しかった」「おいしかった」と言ってもらえるとやりがいを感じます。

蔵田 イベントの写真を見返すとご利用者の方の素敵な笑顔が多くて、皆様に「楽しい」と思える経験をしてもらえると、私たちも達成感があるし、ご家族にも喜んでいただいています。

——若い世代もイベント企画に積極的に関われる秘けつとは？

山川 「チャレンジ」を大事にしているので、意見があがってきたら「できない」は絶対に言わないようにしています。

蔵田 そういう意味では、自由にさせてもらえる環境なんです。

本嶋 いろんな立場、職種の人でもアイデアを出しやすいのが今の職場の好きなところ。

山川 企画だけでなく、ICT化や介護ロボットなど新しい試みもあり、考えること、工夫することが日々たくさんある楽しい職場です。



蔵田さん(左)
生活相談員

ご家族からの感謝の声を直接聞けることが励み。ご利用者の方の人生最後のステージを、より良くすることを心掛けている。

山川さん(中)
介護主任

ご利用者の方それぞれの状況・気持ちを大事にしなが、常に寄り添う介護がモットー。じっくり話を聞くことを大切にしている。

本嶋さん(右)
管理栄養士

毎日の小さな変化に気づいて対応できるのがやりがい。ご利用者の方に安心感をもってもらうコミュニケーションを大事にしている。

取材先／社会福祉法人小石原福祉会…「誰もが笑顔で、幸せを感じられる場所」を目指し、能古清和園と朝倉郡にある清和園を運営する。

福岡市では介護の魅力を発信しています。

介護の魅力を発信しています！是非ご覧ください。

